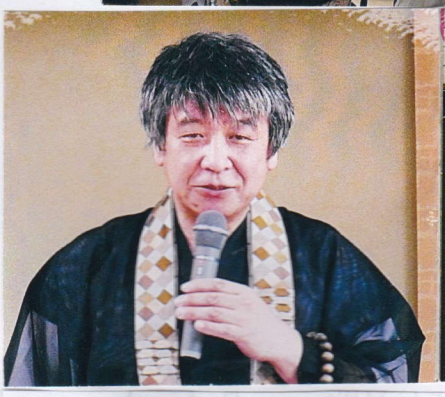
頼成光寿会　広報　平成27年(2015)８月号　通刊124号　発行　頼成光寿会

光寿 8月号

らんじょ浮世亭だより

南砺市大福寺・太田浩史住職に依る講話

砺波庄太郎について話される太田住職



太田浩史さん

熱心に耳を傾ける光寿会員

坂東庄太郎肖像

7月のらんじょ浮世亭は、16日に開催され、南砺市大窪(城端)の大福寺住職・太田浩史氏をお迎えし、頼成の妙好人　と題して講話をいただきました。

砺波庄太郎は，本名を坂東忠兵衛と云い、天保5年10月（1834）に砺波郡般若村大字頼成の坂東太郎兵衛（現当主は宏一さん）の五男として生まれ、22歳で京都に上り、安政、元治と二度に亘る東本願寺の両堂焼失の再建に多大なる尽力をした。

生涯妻帯せず、砺波詰所の主人で通したので人呼んで，砺波庄太郎。

妙好人とは、浄土門の言葉で、篤信・得道の人を意味します。数多くの妙好人が輩出した中で庄太郎は例外中の例外で、篤信者であることは勿論、何と言っても明治の両堂再建と云う大事業にあたっては、五十余りの諸国詰所の触頭，つまりは奉仕団門徒の現場監督としてまさに工事現場に於ける千両役者の観がありました。

庄太郎の考え方・言葉には「我が家の主人は阿弥陀様なり、我が身は番頭と心得よ」「我が家に仏壇があると思うな、仏様の家に住まわせて貰っていると思え」などがあり、正に信心に生きたと申せましょう。

明治36年6月、庄太郎71歳の時に、本山の財務整理のため北陸募財に随行の途中12日金沢にて発病。16日病をおして井波別院にて所用を済ませ、21日夕刻縁者の家で往生。23日生家である坂東家にて葬儀。参列者は千余人であったと云う。

次回は8月20日(木)10時開催

社会見学として　砺波市埋蔵文化センター

砺波民具展示室　見学します